

デジタル田園都市国家構想交付金事業 効果検証

＜令和6年度＞

総合政策部企画振興課

デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証

1. デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）

デジタル田園都市国家構想を推進するため、デジタルの活用などによる観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組を支援することを目的に、国が交付するもの。

（１）事業の名称

未来を担うひとづくり推進事業

（２）事業費（国補助率 1／2）

14,187,700円（うち、交付対象事業費 14,187,700円）

（３）事業概要

よりよい未来の実現を担う若者たちを中心とした幅広い世代の市民が、ふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと」に出逢い、それらの魅力や課題を見出しつつ、地域の魅力拡大や課題解決に積極的に参画する場を設定することで、『まちづくり』と『ひとづくり』を自分事としてとらえて積極的に関わろうとする意識と実践力を醸成し、ふるさと井原を自らの活躍の場として選び、自分らしさを発揮しながらよりよい未来を自らの手で創り出そうとする高い志と熱い思いをもった〈井原“志”民〉の育成と〈志縁コミュニティ〉の形成を図る。

（４）事業実績

○ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業（委託料 12,200,000円）

柱１：ひとづくりのまち「井原」の発信

①「井原市ひとづくり推進本部」及び「井原市ひとづくり実行委員会」の設置・開催

- ・井原市ひとづくり推進本部（１回開催）
- ・井原市ひとづくり実行委員会（３回開催、書面開催含む）

②ひとづくりアドバイザーの委嘱及び招聘しての研修会等の開催

- ・井原市ひとづくりアドバイザー９名（All HEROS 合同会社代表 中山芳一氏 外８名）
- ・井原市カリキュラム・マネジメント研修会、井原“志”民塾、各学校園研修会等に招聘

③ひとづくり事業の周知・理解促進及び資質・能力向上に向けた取組の促進を図るため、まち&ひとづくりフェスタやひとづくり懇談会等を開催

- ・井原市まち&ひとづくりフェスタ（兼井原市ひとづくりネットワーク懇談会）

日 時 令和７年２月２日（日）13:00～16:00

会 場 芳井生涯学習センター ホール等

参加者 231名（中高生 45名含む）



- ④「井原“志”民力」の実態を把握し資質能力向上への取組に活かすため、市内全小中高生を対象にアンケート調査を実施

⑤夢&志づくり応援 Laboratory『ゆめここ☆ラボ@井原～』の実施

◇井原“志”民塾・公開講座等（リアル7回、参加者延べ528名）

◇中高生を中心とした井原市公認ふるさと井原魅力化団体

『Team 夢源♡井原』の運営

- ・夢源 Makers（中高生）…R6 年度末現在登録者数 1 名
- ・夢源 Supporters（大学生・一般）

…R6 年度末現在登録者数 45 名

◇コノユビトマレ合宿

- ・R6.05.25（土）～26（日）星の郷ふれあいセンター
- ・参加者 52 名

◇ふるさと井原“夢&志”アクション助成

- ・高校生 2 組、大学生 1 組、一般 1 組、計 4 組の申請あり
- ・R7.03.21（金）に活動報告会を開催

◇『ユースセンターいばら（仮称）』

- ・地域おこし協力隊（井原市ひとづくりコーディネーター）

事務所を開放する形で高校生を中心とした若者のサードプレイスを開設



柱 2：社会に開かれた教育課程の実現

- ①ふるさと教育・起業家教育の視点を取り入れたカリキュラム・マネジメントの促進に向けた研修会の開催（3 回開催、参加者延べ 81 名）

＊岡山県教育委員会主催「おかやま学びたい賞」に学習活動を出品

⇒優秀賞：県主小学校

奨励賞：井原小学校、木之子中学校、美星中学校、芳井中学校

- ②「ワーク&ライフ職場体験」の実施

・事業所に出向いての職場体験（対象：市内 5 中学校の 2 年生、受入事業所：延べ 117 事業者）

- ③ワーク&ライフ交流会（対象：市内 5 中学校 1 年生もしくは 2 年生、地域キャスト延べ 59 名参加）

柱 3：地域社会・企業との連携

- ①地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業

・井原市ひとづくりネットワーク運営協議会の開催（2 回開催、参加者延べ 129 名）

・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と一体的に推進

⇒市内 12 小学校・4 中学校・1 高校に学校運営協議会を設置

- ②ひとづくりサポート団体及び地域キャスト登録事業

・地域キャストグループ『井原 Lovers』：登録者数（R6 年度末現在）：102 名

③地元企業・事業所との連携による地場産業魅力発信プログラムの開発・導入

◇井原おしごと探検ツアー

- ・ R6.07.30（火）フェニテックセミコンダクター株式会社、株式会社共和鋳造所、片山工業株式会社
- ・ 参加：小学生及び保護者 14 組・計 33 名

◇井原おしごと体験フェス

- ・ R6.08.10（土）芳井生涯学習センター
- ・ 参加：200 組・600 名以上
- ・ 出展（店）：29 事業所・39 ブース ※飲食ブースを含む



柱 4：高等学校及び大学との連携

①市内 3 高校との連携促進・魅力化支援

◇主な活動

- ・ 井原市立高校総合的な探究の時間等の支援
⇒井原市ひとづくりコーディネーター派遣（原則週 1 回）
- ・ 県立井原高等学校総合的な探究の時間等の支援
⇒1 年生『デニム学』（企画・進行、地域キャスト選定・派遣）



②大学との連携促進

- ・ 岡山大学教養科目『地域の未来デザイン』開講支援
⇒座学編（受講生 113 名）：学生が井原市を題材に地域創生を学び、井原市の魅力拡大や課題解決策の案をまとめて企画プレゼンテーションを実施
- ⇒実践編（受講生 15 名）：岡山大学他 4 国立大学学生が本市を訪れ、市内のフィールドワーク、市民や県立井原高校生との交流等を実施

柱 5：家庭教育の支援

- ・ ライフステージに応じた課題別子育て講座、子育てサポーターの養成・活動支援、次世代の親となる中高生のふれあい交流事業を実施

柱 6：読書活動の推進

- ・ 絵本ガイドブックの作成、絵本作り講座及び読み聞かせ講座を実施

○いばら就職支援事業（委託料 1,987,700 円）

①高校生向けのインターンシップの開催

- ・インターンシップ（夏：8月）の実施（受入事業者 12 社、参加生徒 22 名）
- ・インターンシップ（春：3月）の実施（受入事業者 14 社、参加生徒 34 名）



②高校生向けの合同企業説明会の開催

と き 令和 7 年 1 月 31 日（金）
 と ころ 地場産業振興センター
 事業者数 22 社
 生徒数 261 名



③ガイドブックの作成（200 部） ※令和 5 年度より生徒へはデータ提供



(5) 重要業績評価指標 (KPI)

	事業開始前 令和3年度	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
社会増減数（転入－ 転出）【人】	-50	(目標) -48	(目標) -46	(目標) -44	(目標) -42	(目標) -40
		(実績) -158	(実績) -158	(実績) -229		
井原市や住んでいる 地域のことが好きな 生徒児童の割合（生 徒児童の郷土愛） 【%】	68.49	(目標) 69.69	(目標) 70.89	(目標) 72.09	(目標) 73.29	(目標) 74.49
		(実績) 79.53	(実績) 76.60	(実績) 68.32		
日々の生活に幸せを 感じている生徒児童 の割合（生徒児童の 幸福度）【%】	72.17	(目標) 73.17	(目標) 74.17	(目標) 75.17	(目標) 76.17	(目標) 77.17
		(実績) 85.38	(実績) 87.28	(実績) 75.26		
いばら就職支援事業 （合同企業説明会） における市内3高校 の在籍生徒数に対す る参加申込生徒数の 割合（市内事業所へ の関心度）【%】	13.69	(目標) 14.69	(目標) 15.69	(目標) 16.69	(目標) 17.69	(目標) 18.69
		(実績) 14.83	(実績) 26.22	(実績) 39.10		

(6) 実績値（令和6年度）の評価

「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」においては、地域や学校との連携を強化し、児童生徒が自らの努力や成長を実感できるよう、本市の魅力拡大や課題解決に主体的に参画できる場を設定するとともに、取組の振り返りを重視したことから、幸福度の目標値を達成することができた。しかし、郷土愛については、目標値を下回っており、取り扱う地域素材（もの・ひと・しごと）の選定や活動内容について再考する必要があると考える。

「いばら就職支援事業」においては、在籍生徒数が減少する中、令和5年度から合同企業説明会の開催日程を平日の開催とし、市内3高校の授業での取り組みとして調整することで、生徒が参加しやすい環境となり、参加申込生徒数は前年より増加したことから、目標値を達成することができた。

(7) 元気いばら創生戦略会議（外部有識者等）の評価

「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」においては、『幸福度』の目標は達成しているものの、『社会増減数』や『郷土愛』は、一朝一夕に改善するものではないことから、今後も多くの市民を巻き込みながら、まちづくりの視点を含め一体的な取組を行うとともに、児童生徒のニーズを把握し、満足度や肯定感を高めていく工夫を行っていく必要がある。

また、「いばら就職支援事業」においては、令和6年度の目標値を達成しているものの、事業者と学校双方のニーズに対応しながら取り組む必要があるため、実施方法については引き続き調整していくことが望ましいと考える。

（８）今後の方針

「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」では、事業対象者の満足度や肯定感を高めていくため、改めて若者を中心とした市民ひとりひとりのウェルビーイング向上を意識して取り組むとともに、今後も産学官民が一体となり、若者に選らばれるまちづくりを進める。

また、「いばら就職支援事業」では、参加を希望する生徒や事業者の数が増加している現状を踏まえ、より効果的なマッチングの促進を図る必要がある。そのため、若者の職業意識やキャリア形成につながるよう、合同企業説明会や春・夏のインターンシップを一連のストーリー性を持った事業展開として実施するよう検討する。

2. デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）

デジタル田園都市国家構想を推進するため、デジタルの活用などによる観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する拠点施設の整備等を支援することを目的に、国が交付するもの。

（１）事業の名称

広域連携拠点施設（熱利用施設）整備事業

（２）事業費（国補助率 1／2）

64,900,000円（うち、交付対象事業費 64,898,000円）

【交付対象事業費の内訳】

井原市：16,912千円、笠岡市：21,605千円、浅口市：15,699千円、

里庄町：5,153千円、矢掛町 5,529千円

（３）事業概要

笠岡市、井原市、浅口市、里庄町及び矢掛町が岡山県西部衛生施設組合の広域連携拠点施設（熱利用施設）を整備し、3市2町が人口減少や高齢化率の高まりによって抱える4つの課題（健康寿命の延伸、新たなコミュニティの形成、交流人口の拡大、学校施設の老朽化と水泳授業における課題）を解決し、地域の魅力を高める。

また、自治体の枠を越えた新たなコミュニティの形成や住民間の交流を活発化することで地方創生として目指す「生涯活躍のまち」を実現し、圏域への人の流れを創出する。

（４）事業実績

本事業は、岡山県西部衛生施設組合が「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI法）」に準じて設計・施工・維持管理・運営業務一括発注方式（DBO方式）により実施している。令和6年度は、本事業の事業者である特別目的会社「ホシノWA株式会社」が、施設整備計画の初年度として当該施設の基本設計及び実施設計を行った。

また、施設整備に関する周辺住民への説明会を開催し、当該施設の利用促進に向けた機運醸成にもつなげることができた。

【整備イメージ】



(5) 重要業績評価指標（KPI）

	事業開始前 令和5年度	令和6年度 (1年目)	令和7年度 (2年目)	令和8年度 (3年目)	令和9年度 (4年目)	令和10年度 (5年目)
3市2町のUIJターン者数【人】	525	(目標) 530	(目標) 536	(目標) 555	(目標) 576	(目標) 597
		(実績) 437	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
3市2町における健活宣言企業数【社】	160	(目標) 164	(目標) 166	(目標) 171	(目標) 176	(目標) 180
		(実績) 176	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
圏域内観光拠点（笠岡市及び矢掛町の道の駅）の入込客数【千人】	918	(目標) 925	(目標) 939	(目標) 953	(目標) 977	(目標) 1,000
		(実績) 846	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
本施設の年間利用者数【百人】	0	(目標) 0	(目標) 0	(目標) 210	(目標) 912	(目標) 1,027
		(実績) 0	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)

	令和11年度 (6年目)	令和12年度 (7年目)
3市2町のUIJターン者数【人】	(目標) 618	(目標) 639
	(実績)	(実績)
3市2町における健活宣言企業数【社】	(目標) 185	(目標) 189
	(実績)	(実績)
圏域内観光拠点（笠岡市及び矢掛町の道の駅）の入込客数【千人】	(目標) 1,020	(目標) 1,039
	(実績)	(実績)
本施設の年間利用者数【百人】	(目標) 1,084	(目標) 1,141
	(実績)	(実績)

(6) 実績値（令和6年度）の評価

設計協議においては、施設整備計画の実現に向け、利用者動線の向上やライフサイクルコストの低減が図られる施設となるよう検討を重ねた。

また、交流広場や足湯スペースの配置を見直し、交流人口の拡大が図られる平面計画に変更することで、敷地の有効活用を図ることとした。

令和6年度は事業の本格実施期ではないことから、交流人口及び定住人口への大きな影響がみられず、KPI「3市2町のUIJターン者数」及び「圏域内観光拠点（笠岡市及び矢掛町の道の駅）の入込客数」の達成に至っていないものの、見直しは行わないものとする。

(7) 元氣いばら創生戦略会議（外部有識者等）の評価

計画に沿って着実に施設整備を推進するとともに、KPIの達成に向けて、完成後を見据えた積極的なPR活動に取り組んでいく必要がある。

(8) 今後の方針

引き続き、本事業による施設整備を計画通りに進めるとともに、関連事業や施設のPRを行うことにより、KPIの達成を目指す。